

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



黄土高原写真コンクール「暮らし」部門受賞作『お母さんの大鍋』(福井喜久子さん撮影)

Contents

- 第13回会員総会報告 P 2
- 認定NPO法人2度目の認定 P 3
- 会員総会記念講演抄録 P 4
- 東北電力総連ワーキングツアー報告 P 6

2007.7

116

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク

緑の地球ネットワーク 第13回会員総会報告

6月16日、大阪市立総合生涯学習センター第2研修室にて、緑の地球ネットワーク第13回会員総会が開催されました。

会員660名/団体のうち出席者数63名、書面による決議への参加292名、委任状提出者106名、合計461名で総会が成立しました。

【議事】

2006年度事業・決算・監査報告とその承認、2007年度事業計画と予算の提案と承認、新役員の承認がおこなわれました。

新役員は次のとおりです。なお、顧問に新しく小川眞さん（大阪工業大学

リエゾンセンター長）と前中久行さん（大阪府立大学大学院教授）が就任されました。また、稲井由美さん、清水信孝さんが12期をもって世話人を退任されました。

- 代表 立花吉茂
- 副代表 有元幹明/川島和義
- 事務局長 高見邦雄
- 会計 太田房子
- 世話人 会田伸子/今井ひとみ（新）/上田信/小畑勝裕/竹中隆/巽良生/東川貴子/藤沼潤一（新）/干場革治/前川宏/宮崎いずみ/宮下利江/向川郁郎/村松弘一/八木丈二/

山永ユカリ

- 監査 池場道明/早草晋
- 顧問 石原忠一/小川眞/遠田宏/前中久行

【懇親会】

今回は場所を変えて、食事とお酒もまじえてのくだけた懇親会となりました。40人ほどが参加し、思い思いに親交をふかめました。（東川）



ボーナスカンパのお願い

緑の地球ネットワークの活動は16年目のなかばとなりました。スタート以来、多くみなさんにご協力・ご支援をいただき感謝します。

2006年度は会費8,946,000円、寄附20,611,189円、助成金18,450,000円のご協力をいただきました。ありがとうございます。大同では、この春までに延べ226事業、5,230haに16,653,000本の植林を実施し、日本のGEN事務所と大同の緑色地球ネットワーク大同事務所の活動を維持しています。

活動16年目の半ばとなり、大同での協力プロジェクトも多様化しそれにともない維持費も増加しています。以下の項目にみなさんのご支援をよろしくお願いいたします。

なお、2005年6月から国税庁から認定NPO法人の認定を受け、今年6月からは第2期目の認定が決まりました。GENへの寄附金は寄付金控除の対象となります。個人の場合は「寄付金額-5,000円」を所得金額から控除することができます。法人の場合は損金に算入することができます。相続・遺贈による寄附は相続税の課税対象から除かれ

ます。

GENの場合寄付金となるのは、緑化基金・運営カンパ・カササギの森協力金・みみずく基金と、会費のうち1口以上の部分・賛助会費から12,000円をひいた金額です。くわしくはお問い合わせください。

【ご協力項目】

- 会費：一般会員年額12,000円、団体会員年額12,000円、家族会員（家族の2人目から）年額6,000円、学生会員年額3,000円、ジュニア会員（中学生以下）年額1,000円、賛助会員年額100,000円（会費には会報購読料を含んでいます）。
- 運営カンパ：日本国内の管理費用にあてます。
- 緑化基金：中国山西省大同市の緑化協力費用全般にあてます（以下項目はご協力の2割以内を事務管理費にあてさせていただきます）。
- かささぎの森協力金：大同県カササギの森1ha5万円の緑化費用。
- みみずく基金：1口1万円。緑色地球ネットワーク大同事務所とGENが共同運営するプロジェクト（環境林センター、

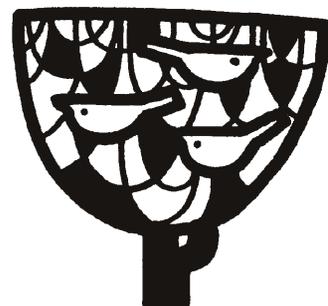
霊丘自然植物園、白登苗圃、かけはしの森）の運営費用。

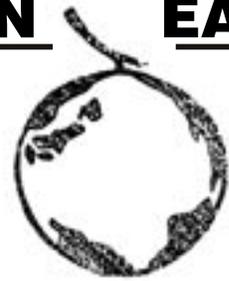
○会報「緑の地球」購読料：年間2,000円

その他、書き損じハガキや古切手、未使用の切手・テレカ、不要な商品券・外国コインなどを集めています。みなさんのご協力をお願いします。

助成が決まりました

三井物産環境基金から、3年間1,710万円の助成が決定しました。ありがとうございます。初年度の2007年度は900万円です。





認定 NPO 法人

国税庁から 2 度目の認定

「社員名簿」への代替も認められる

緑の地球ネットワークは国税庁長官から「その運営組織及び事業活動が適正であること並びに公益の増進に資することにつき一定の要件を満たす」と認定され、税制上の優遇措置を受ける「認定特定非営利活動法人」になっています。

- (1) 個人の寄付は、「寄付金－5千円」を所得から控除できます。
- (2) 法人の寄付は、損金扱いされます。
- (3) 遺産相続、遺贈のばあい、寄付されたものは相続税の対象から除外されます。

(それぞれに定められた限度や条件があります)。

緑の地球ネットワークの最初の認定

期間は、2005年6月1日から2年間でしたが、このたび2回目の認定を受け、2009年5月31日まで継続されることになりました。

認定の申請にあたり、提出を求められる書類のなかに「社員名簿」(私たちのばあい社員=会員)があり、氏名、住所、所属法人などを記入することになっています。そしてそれは所轄の税務署で閲覧対象となります。特定の法人に所属する社員が全社員の3分の1以上でないことを証明するためだとされています。

私たちのばあい社員は650名にもほります。それだけの個人情報を不特定多数の目にさらすのは個人情報保護

法の精神にも反するので、避けるべきだと考えました。そこで名簿のかわりに法人ごとの人数を記載した書類を提出し、特定の法人に属する社員が3分の1を超えないことを明らかにしました。

このたび国税庁は、私たちの事務所にたいする調査と、血の通った公正な判断によって、2度目の認定をおこないました。社員名簿の提出に抵抗のある団体は少なくなく、なかにはそのため申請を見送っている団体もあります。このような判断が拡大し、認定NPO法人制度がより多くの団体に門戸を開くことを期待します。(高見)

はじめこの習伐体験

間伐で森と水をまもる

西田喜美代(大学生)

5月27日、NPO自然と緑のみなさんといっしょに、比良山麓・馬が瀬で、17人が参加して間伐作業にこちよい汗を流してきました。この日、伐って運び、皮をむいた丸太は、いかにして夏の子どものための自然学習に使うそうです。楽しそうですね。琵琶湖畔の里山で、さまざまな活動がおこなわれています。

私は大学での森林問題に関する授業で間伐について学び、その後先生から実際に間伐を体験させてもらえるNGOがあると聞いて、今回GEN主催の比良山麓・馬が瀬での間伐作業に友達と2人で参加しました。JRの駅を降りてから作業場所に行くまでの道も緑がいっぱい。久しぶりに自然とふれあって気分も高揚していた一方で、参加者は社会人の方が多く間伐体験も初めてだったので作業前は少々不安もありました。

作業場所に着くと、スタッフの方に木の切り倒し方を教えてもらい、早速作業開始。スタッフの方は慣れた手つきで木を切り倒していくのですが、いざ自分がやってみると思った以上に大変でした。それでも遅いペースながら何とか自分の手で木を切り倒した瞬間、

今まで木の枝に覆われていた空から太陽の光が差しこんできてとても気持ちよかったです。その後2時間くらい作業をつづけた結果、森の中に太陽の光が差しこむようになり、作業前に比べて森の中がとても明るくなりました。

昼食後は丸太の皮むき作業をおこないました。ヒノキは皮をむくとこんなにツルツルになることを初めて知りました。その後丸太を小川でみながいて今回の間伐

体験は終了しました。

間伐体験終了後、琵琶湖に遊びに行つたのですが、水が想像以上にきれいなことに驚きました。琵琶湖の水源の森を豊かにする間伐作業は、森だけでなく琵琶湖の水も豊かにしているのですね。今回の間伐体験をとおして間伐の重要性をあらためて実感することができました。スタッフのみなさんありがとうございました。



はじめて木を切り倒す。慣れないのこぎりに悪戦苦闘。

菌根と炭で地球温暖化に立ち向かおう

小川眞さん講演抄録

会員総会にさきだつ小川眞さん（大阪工業大学リエゾンセンター長）の講演には、キノコのことを知りたいと GEN 会員以外の方も来られました。たくさんの写真をつかった、興味深くわかりやすいお話で、会場にはしばしば笑いも起きました。全部はカバーしきれませんが、内容のごく一部をかつまんでご紹介します（文責＝編集部）。



◆世界で、日本で木が枯れる

1992年、ポーランドから林業の専門家たちが訪ねてきました。ヨーロッパで針葉樹が枯れる、ポーランドとドイツは特にひどい、針葉樹のなおしかたを教えてくださいと言います。で、炭でマツをなおすという話を教えました。帰り際にその人たちが、おたくの国も広葉樹が枯れますよと言ったんですね。それで心配になって福井県へ電話して聞いたら、今庄のスキー場でもものすごく枯れていると。枯れて夏でも紅葉みたいになっている。

92年から97年まで5年間、どんどん広がった。原因はカシノナガキクイムシという虫が幹に入る。キクイムシの仲間は身体に菌を共生させていて、それが入って形成層をくさらせる。直接原因はそういうことです。

これが、ブナ・ミズナラからはじまります。豪雪地帯で被害がでる。雪の中に汚染物質－窒素酸化物、硫黄酸化物がたまっている。アンモニアも検出される。積もった雪が溶けたり凍ったりを繰り返して、汚染物質が下の方に沈んでいく。春先の雪解け前には積雪の底の方で、降ったときの7倍から8倍の濃度に濃縮されていた。春に雪がとけるとどっと汚染水がかかる。ナラの仲間もブナの仲間もみんな根にキノコ、菌根というのをつけています。いろんな種類の菌根が根をつつんで水や栄養を送っています。溶け出した汚染

物質が、この菌や若い根をやっつけて、根が腐ってしまうんです。92年頃にはミズナラだけでしたが、現在はコナラ、スダジイ、クリもやられる。平地でも被害が広がっています。

枯れの原因物質は海の向こうから飛んできます。中国と朝鮮半島のものがいっしょになって飛んでくる。冬の雪で日本海側がやられる。夏になると梅雨になって降り、太平洋岸がやられます。九州の南岸から四国、和歌山にかけて、やっぱり木が枯れる現象が起こっている。日本列島は水に恵まれて温暖湿潤で大変いいところでしたけれども、汚染物質のたまり場になってきたという危機感があります。

◆海外で炭と菌根をひろめる

1981年にSPDCという、先進国の研究者は発展途上国の技術援助にはたらくという申し合わせがスタートしました。韓国や台湾の研究者にひっぱられて、マツタケをやったり、マツ枯れの手入れをしたりしました。この方々が私に海外で働く動機を与えてくださった。人のためにというのが非常に大きな動機になっていて、人を思う心が非常に強く伝わってきて、それに共鳴してうろうろと歩き回るようになったわけです。人のつながりというのは大変大事なことです。

タイにも行きました。天然林を伐採したあとにユーカリをたくさん植えたんだけどどうまくいかない。湿地帯に植えているんですが、ユーカリは根が深く入る乾燥地の植物ですから、水を吸い上げて、地下水位を下げてしまう。乾燥して、周辺の井戸水ががれてしまう。そのうえ、アレロパシーという作用で、ほかの植物が入らないようになってしまいます。外来樹種をもってくるのは非常に危険だとわかって、在来樹種のフタバガキなんかを植えてみようというのをやりました。

次にインドネシアへ行きました。ラワンの仲間はたくさんあって、直径が2m近くなるような大きなものがあります。これを林道をつけて、大きないい木から切っていく。道がつくと盗伐も入って、5、6年すると細い木までみんななくなってしまう。

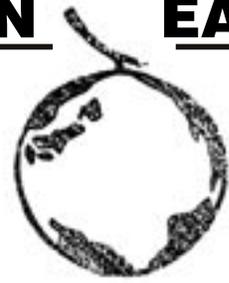
その上山火事が多い。山火事のあとにアランアランという草が生えてきます。こうなると木が生えない、育たない。また焼いて農地にしますが、3年か5年でみんなダメになってしまって、アジアでも大面積が破壊されました。インドネシアで特に多い。

そこへフタバガキを植えようということになった。この実が保存がきかない。なにをしてみても、すぐ発芽してしまう。あつめるのも大変で、山に入って手で拾わなきゃならない。そして、乾燥ストレスがなければ実をつけない。そういうやっかいな木です。

その苗をビニールポットに植えておくと、大きいのと小さいのとずいぶん差がつかます。大きな苗は根が白い、菌根ができてる。小さい方はついていない。じゃあその菌はなんだろうと調べて、苗畑で傘にならない、袋状のキノコを見つけました。

それがつくる菌根はきれいに根をつつみます。伸びる根について次々とおおっていくので、根の全体が白っぽくみえます。菌糸は水の中の溶存酸素を吸収することができるので根が水浸しになっても死にませんし、温度が非常に低くなくてもマントの役割をして凍結しない。

1種類の木にたくさんの種類の菌根がつかます。たとえばアカマツは、マツタケをはじめ40種類ぐらいのキノコをつけている。どれかが絶えてもどれかが代わるわけです。菌の方も、いろんなものについている。マツタケは、アカマツにもクロマツにもツガにもつく



ようになっていて、どれかの親がだめになっても他でいけるように生きる戦略をもっています。

炭を入れて実験をしました。苗箱にフタバガキの苗を植えて、菌を接種します。そこに炭の粉をいれます。たくさんかたまりにして入れたのはよく伸びて、ばらばらに小さな団子にして入れたのはあまりよくありませんし、混ぜたのはなにも生えてない。

炭を固まりにしていれると炭のところに細い根がいっぱいできて、白い菌根がいっぱいできます。もみから薫炭の方がこの場合はよく効きました。もみから薫炭を10%ぐらい土に混ぜると水の通りもよくなるし菌根もよくつきました。

いちいち菌を植えるのは大変ですから、菌をつけた若い木のまわりに、底に穴をあけた苗のポットを並べておきます。そうするとこの木のまわりから菌がついてきて、半年ほどすると全部につきます。こんなことを、マレーシアやタイでやっていると思います。

最近インドネシアでも天然林をどんどん切って、お金が入るアブラヤシのプランテーションが増えています。自然に優しい洗剤とかいってありますが、決して優しくありません。大破壊のあとに作っている。それをよくご承知の上でお使いください。

西オーストラリアからパルプ用材に持ち込んだアカシアマンギウムが、東南アジアで広がっています。早く大きくなって、種がいっぱいできる。天然播種で、道端から空き地からどんどん出てきます。そのうちスマトラとかカリマンタンはアカシアマンギウムの林になるんじゃないか。このモノカルチャーがすすむと、病気害虫で全滅してしまいかねない。こういうものがいま広がっています。経済性優先だところになります。

製紙産業は自然破壊の元凶だとよく悪口を言うんですが、原材料の30%ぐらいしか紙になっていない。あとは全部廃棄物。樹皮、砕けた材。膨大な量です。あれだけの木材を収奪すると、土の中のリン酸とか窒素とかを持ち出している。だから3回、20年もつづけ

たらダウンしてくるに決まっています。だから廃棄物を炭にして林地に戻さないといけません。農業にも使える。でもなかなかそうはいきません。

今年、私は行けなかったんですが、オーストラリアで第1回のアグリチャー（農業用炭）利用推進国際会議というのをやって、炭を農業につかうことによって持続可能な農業生産、林業生産をしようという提案をしました。おそらく数年したら日本でもさあやろうということになると思います。外圧をかけた方が早い。

タイからインドネシアのマングローブ。これも破壊が多い。まず炭にして、この炭焼きのために全滅すると、それがみんなエビの養殖場が変わった。炭もエビも買うのは日本。マングローブの破壊に日本はおおいに貢献していたわけです。なんとかそれを修復するのを手伝わなきゃならない。

これは北朝鮮で、緑が非常に豊かですけれど、首領様の別荘のあるところなものですから、切らないで残してるんです。ほっとけばこういう自然林の状態になる。広葉樹とマツがまじって、この上の方でマツタケが出ます。

ほかのところはほとんど木が生えてない。田舎に行けば行くほど何もなくなくなって、まっ茶色の山です。耕作面積を拓げるために、山の下ざりざりまで畑や果樹園にしてしまって、みんな掘り起こす。そうすると雨が降ったときに土砂がでる、川が埋まる。火事も多いようです。

そこで農業のやり方を教えてくださいというので、仕方がないから行きました。いろいろな実験、もみから薫炭をつかって土を改良して植えたり、炭に肥料をしみ込ませたのをやって、野菜づくりやら米づくりをしました。けっこうよくできて、3年つづけてもらいましたが、拉致問題でつづけられなくなりました。

ほかにもサウジアラビアとかオーストラリア、中国の福建省とか、いろんなところをうろついてきましたが、賽の河原みたいで、つんではくずれ、ほとんど形をなしません。それほど一旦破壊した自然を戻すというのは大変

なことです。くずすのは簡単ですが、戻すのは何百倍もの労力と時間がかかる。だからできるだけ破壊しないで、資源を大切にしようと思います。

◆日本の海岸林を再生する

いま、『白砂青松再生の会』という運動をしているので、ちょっとご紹介しておきたいと思います。

白砂青松の林が、40年前には日本の海岸にありました。白い砂で緑の松、やたら枝が伸びなくて、細かな枝がきれいに出来ます。キノコもよくでておりました。キノコがよく出るとというのが、健全な証拠。出なくなったらダメ。

この海岸林が、どんどん枯れて失われております。それを炭を埋めて再生しようというボランティアです。

以前、宮崎のシーガイアで、松林の落ち葉をかいて、弱っているところには炭をいれてなおしました。唯一大面積でやったところで、外国資本になったいまも落ち葉かきをつづけて維持しています。いまもあちこちからお話をいただきまして、出雲大社などいろいろなところでやっております。炭を埋めると菌根がでて根がよく伸びて、木が元気になります。景観のためだけではなく、海岸線の保護や防災、炭素固定や資源保全、観光資源の保護など、白砂青松再生の果たす役割は大きなものがあります。

本の紹介

『炭と菌根でよみがえる松』（小川真著／築地書館／本体2,800円（税別））

この記事では十分ご紹介できなかった日本の海岸林をよみがえらせる小川さんの活動については、この本をご覧ください。日本各地での松林復活の実践のようすだけでなく、マツの健康診断や、マツや炭に関する企業や団体のリストものっていて、いたれりつくせりです。GEN事務所でも取り扱っています。

苗木1本を定着させるために……

佐藤 武夫（東日本興業労働組合）

春のツアーの最後は、東北電力総連です。5月15日～22日、すでに初夏を感じさせる大同で、21名が植樹や小学校での交流を体験してきました。参加者に感想を送ってもらいました。

隊員との初対面は3月2日事前研修でした。1度の研修で皆まとまるかと心配していましたが、自然とうちとけあい初対面とは思えない雰囲気でした。5月15日いよいよ出発当日、研修会より2ヶ月経ち不安な面もありましたが、久しぶりの対面を喜びつつ、どんな活動が待っているか期待に胸をふくらませでの出発でした。

北京に到着し1日滞在后、活動の拠点になる大同に移動。大同での4日間は、小王村「小学校付属果樹園」でのアンズの植林作業（300本）や農家でのホームステイ、希望学校での交流、カササギの森での植林作業（300本）が主な活動でした。植林作業では、畑を耕すこと、木を植えること、維持管理することを実際に経験し、苗木1本定着させるためにどれだけの時間と労力がかかるかということ学びました。ホームステイ先では、きっと普段は食べないであろうご馳走や身ぶり手ぶりの交流、ま

た日本では見ることのできない星空を満喫しました。小学校では勉強をしたくてもお金がなく、満足な教育を受けることのできない現状を現地の方に教えてもらいました。また学生との交流では、目を輝かせ私たちと一緒に遊ぶ子どもたちの姿が忘れられない思い出となりました。

日本に戻り、いままでどおりの暮らしをしていると、8日間の旅で感じたこととの違いがあり不思議な感覚になります。中国での格差は、日本の比ではなくさらに大きいと感じました。でも子どもたちは、元気に、たくましく、何かを変えようと懸命に生きています。私たちが忘れてしまった思いがああ地にあつたように感じます。これから

もこの協力隊が15次20次と続いていくと思いますが、言葉で伝えられないこの思いを、参加者自身の目で見て体感してほしいと思います。

最後になりますが、遠田先生、会田さんGENのスタッフの皆様に変なお世話になりました。そして14次隊最高でした。最高の仲間めぐりあえたこと、鈴木隊長、隊員の皆さん、この機会を与えていただいた東北電力総連に感謝いたします。本当にありがとうございました！



カササギの森の記念碑の前で記念撮影



会員総会に寄せていただいたメッセージの一部をご紹介します。

●黄砂でけむる大阪、以前はまったく気がつかず、近年ひどくなったのか？

マスコミにも多く登場するようになった、GENの活躍がさらに進むことを期待します。(O.H)

●認定NPO法人2回目おめでとうございます。活動実績が公益にふさわしいものと確信しております。“貧困の解消”が地球最大の課題としますので、GENが真正面からこれに取り組んでおられることに心から敬服するとともに微力ながら引き続きお手伝いさせていただきます。ご盛會を祈ります。(T.N)

●息子たち（小4、小2）とワーキング

ツアーに参加したいと思いつつ、仕事やら何やらでなかなか踏んぎれずいます。近いうち必ず参加したいとは思っていますので、その際はよろしくお願いします。(K.Y)

●千葉県外房に退職後畑小屋をもうけ、家庭菜園を楽しみ、周辺に植樹（梅の他果樹）をして17年になります。梅がたくさん収穫できて、梅干しを作り、地元小学校のバザーに少々寄付できるようになりました。悩みは野生動物（ハクビシン、アライグマの他最近キョンまで）です。(N.T)

●寒波によるあんの被害はとてもしョックです。ここ福岡では最近毎日黄砂と光化学スモッグが続いています。ゆがんだ経済発展と過酷な内陸部の砂漠なんですね。余談ですが、中国からの輸入材、割り箸は森林破壊と因果関係があるのですか？ 間伐材だから問題ないとも聞きますが……。 (Y.K)

●この4月から就職し、バタバタと過ごしております。少し落ち着いたらまた活動の方を応援させていただきたいと思つています。総会の成功をお祈りしています。(T.A)

●最近思わぬところでGENに関する話を聞くことが時々あります。それだけ活動が評価されはじめたということ、一段と激しい「黄砂」を目の当たりにして、中国の環境問題が身近なものになってきたということでしょう。お互いがんばりましょう。(Y.S)

●そうですか、会員数は伸びていないのですか。いろいろなところの会員になっているので、この時期、総会のお知らせ（と、会費振込のお願い）がいくつも届きます。その中では、活動状況がわかりやすくして順調だと思つていました。世間的にも認められてきたようですし。それでも会員は増えないものなのですね。(S.K)

●入会したばかりで、何もしていないのが心苦しいと思っています。そこで、勤める会社でも何かできないか模索中です。(A.T)

●総会の成功をご祈念申し上げます。私は会員でいることで環境のことに関心を持ち続けることができます。(K.T)

●事業報告を読んで、何をなさっているのか、その他いろいろ想像することができました。高見事務局長の大同市栄誉市民の称号授与おめでとうございます。この報告書を仏前に供えて、故、夫と喜び合いました。出席できませんことをおわび申し上げます。(S.E)

●仕事に忙しくワーキングツアーも一度行ったきり。でも関心を持ちつづけることを心がけています。企業の社会的責任が問われる時代においては企業さんの協力も見込めますが、個人としての、特に私のような?若い会員の輪

が広がるように工夫をしていきたいですね。(E.M)

●ご無沙汰しております(毎回そう言っているように思います…)。子どもの手が離れたら、と思いながら、まだまだ渦中です。

中国はものすごい勢いで変わってきていますね。GENの活動はやりやすくなっていくのでしょうか、やりにくくなっていくのでしょうか。今後とも陰ながら応援してまいります。(K.R)

●植林活動は何十年単位での事業です。ご計画されている自主財源の確保に期待しています。そろそろ段階として、中国国内でのアピール、そしてそれに伴う中国国内での寄付の募集ということにも発展させていってはどうか? により、地元中国の、環境への意識改革が必要であるように感じますし、ネットワークのより安定

した基盤になると思います。(Y.M)

●ご無沙汰お許しください。私なりに環境も反戦も怒りに燃えて責任がたくさん被ってきて動きのとれない状態でアップアップです。いつもそちらの活動は気をつけて見ております。マスコミにお名前が出ることも多いですね。カササギの森どうなったかなあと夢を見ております。そして高見さんがGENでご活躍のように私は私の活動の暖簾を守っていきます。今後ともよろしくおねがいします。(U.A)

●昨年でしたか、「カササギの森」の寄付の件なかにかで立派な表彰の台?をいただきました。そういうものをいただいて嬉しいと感じる人は少ないのではないのでしょうか? それにかかるコストをぜひ、他のことに費やしていただけたらと思います。(K.M)

植物屋のこぼれ話 (続編) その14

立花 吉茂 (GEN代表・花園大学客員教授)

●変身するタンポポ

「都市化の指標植物」といわれるセイヨウタンポポが変身をはじめた。関西には「カンサイタンポポ」が、中部地方には「トウカイタンポポ」が、また関東地方には「カントウタンポポ」が分布していたが、戦後に都市化した地域に「セイヨウタンポポ」が広がった。なぜ都市部に多いのかははっきりしていないが、「セイヨウタンポポ」がコンクリートの近くによく生えることから、酸性土壌を嫌い、アルカリ化した場所を好むからではないかと考えられている。ところが最近、農村部にも「セイヨウタンポポ」らしい株が生えているのを見かけるようになった。xxらしい、というのは罫の部分にいろいろな形の株が見られるようになったからである。

●三倍体に種子ができる?

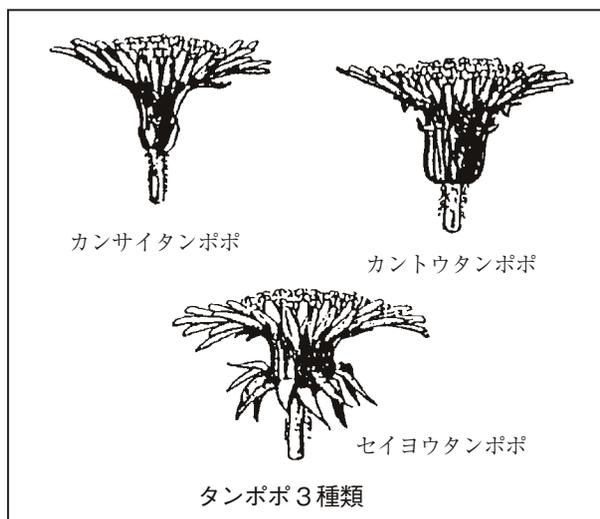
染色体数が基本数の三倍になった植物はバナナのように種子ができないことが常識のようにになっているが、セイヨウタンポポは実は三倍体植物なのである。それが種子によってどんどん増えているのだから驚きである。しかし

自然界は簡単ではない。「単為生殖」とか「処女生殖」とか「単為結果(実)」とかいわれて、親と全く同じ遺伝子をもつ種子を結ぶ植物はほかにもあるらしい。生活力旺盛なやつだなど思っていたらもっと驚くべきことがわかってきたのである。それは「カンサイタンポポ」との間に雑種ができはじめているらしいのである。xxらしいタンポポというのがそれである。

●新種のタンポポになるのか?

雑種らしいタンポポが生えていたのは滋賀県、奈良県で他の地方ではまだ確認していないが、xxらしいタンポポが増えていることは間違いのないと思われる。それは同じ場所に2度出かける機会が多いのだが、そのつと株数が増えているからである。しかし、本当に雑種かどうか確認するには、形態だけでなく、染色体を調べる必要がある。遺

伝子を確認できればひとつの立派な論文になるだろう。筆者は顕微鏡を見るのがつらい年齢になっているので、やる気は失せているから、若い研究者にやってほしいと思う。これは単なる指標だけでなく、進化論的に意義深いと思われる。同じような雑草でセイタカアワダチソウと日本のアキノキリンソウとの雑種も滋賀県と大阪府で発見している。しかし、これはあまり増えている気配はないが、タンポポは増える傾向にあるので、変化に富む性質のある雑種は強い株が残って新種になるかもしれない。世の中複雑になったものだ!





中国黄土高原
紅棗（なつめ）がみのる村から
写真展

山西省臨県に住み、聞き取りと撮影をつづけている大野のり子さんと、友人たちの写真展です。

【東京】7月3日（火）～30日（月）9時～19時

汐留メディアタワー 3F ギャラリーウォーク（港区東新橋1-7-1 汐留メディアタワー（共同通信本社ビル）Tel. 03-6252-8086）

【名古屋】8月7日（火）～12日（日）10時～18時

市民ギャラリー栄 第3展示室（名古屋市中区栄4-1-8 中区役所ビル7F Tel. 052-265-0461）

【大阪】8月28日（火）～9月3日（月）10時～16時

寢屋川市立ふれあいプラザ香里（寢屋川市香里南之町19-17 Tel. 072-835-3335）

*当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。

*当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

【埼玉】9月8日（土）～16日（日）9時30分～17時30分

富士見市立中央図書館 展示ロビー（富士見市鶴馬1873-1 Tel. 049-252-5825）

11月以降に、松本、長野、京都での開催が決まっています。

●問合せ・事務局

信濃むつみ高等学校東京エクステンションセンター内 東京実行委員会（〒170-0002 東京都豊島区巢鴨1-20-13 2F Tel./Fax. 03-3947-2621 e-mail : natsume2007_tokyo@yahoo.co.jp URL <http://www.natsume2007.jp/index.html>）

第21期関西NGO大学
世界とよくつながるために、
私ができること

●日程

第1回：9月22日・23日

第2回：10月13日・14日

第3回：11月17日・18日

第4回：12月15日・16日

第5回：08年1月19日・20日

第6回：2月16日・17日

すべて土曜・日曜、1日目19時開始、2日目15時終了。

●場所：小林聖心女子学院ロザリオ・ヒル（阪急今津線「小林」駅徒歩7分）

●参加費：(1) 受講料 各回6,000円（一括前納割引30,000円・全6回分）

(2) 施設利用・宿泊料 各回5,500円（2食つき）(1)(2)両方が必要です。

●問合せ・申込み：（特活）関西NGO協議会 関西NGO大学事務局（〒530-0013 大阪市北区茶屋町2-30 大阪聖パウロ教会4階 TEL. 06-6377-5144 e-mail : info@Ndai.net URL <http://Ndai.net>）

